

フラッシュユ

Part 1

3.25

千四百年前の伝説!?

羽黒

春休み親子羽黒ミステリーツアー



鶴岡まちづくり塾羽黒グループによる「春休み親子羽黒ミステリーツアー」が行われ、小学生の親子ら三十四人が参加しました。このツアーは、地元の歴史やロマン、伝説などを調査・学習し、地元の優れた歴史資源に興味を持ってもらいたいと、同グループのメンバーが企画したものです。



参加者には、当日まで行き先は秘密。集合後に地図とタイムスケジュールが渡され、羽黒山を開山したといわれている「蜂子皇子」に関わりの深い場所や史跡などをバスで巡りました。皇子が難を逃れて上陸したとされる由良の八乙女、羽黒山の方向を見立てたと伝えられる山添の見立八幡羽黒山に向かう途中に立ち寄った高寺・玉川など各地に残る伝説と史跡について、メンバーが物語形式に解説しました。

朝から冷たい雨が降るあいにくの天気でしたが、参加者は「史実とつながりのある話を聞いておもしろかった」「身近なところにこんな伝説があるんだ」と、解説を聞きながら楽しく学んだようでした。

3.24

待望の「日沿道」を疾走!

市内

日本海沿岸東北自動車道 温海～鶴岡間 開通



日本海沿岸東北自動車道あつみ温泉インターチェンジ～鶴岡ジャンクション間(延長二十五・八キロ)が供用開始されました。庄内地方を縦貫し産業や文化などの広域的な連携・交流を図る上で欠かすことのできない重要な路線として、早期開通が待たれていました。この日は午後五時の一般解放を前に、開通式典のほか、ウオーキングやマラソンなど記念イベントが行われ、市内外から多くの方が訪れました。マラソンのスタート地点である鶴岡西インターチェンジには、冷たい



い風が強く吹きつける中、「開通前のこの日しか体験できない」と意気揚々の市民ランナーたち。約二十一キロの高速度道路の上を笑顔で駆け抜けました。また、あつみトンネルに並行して走る避難坑を巡るツアーも行われ、参加者は担当者の説明を聞きながら火事など有事の際の避難ルートを確認していました。

本市では引き続き、あつみ温泉インターチェンジ～朝日まほろばインターチェンジ間を含む日沿道の全線開通に向けて取り組みを進めていきます。

声 Voice

市役所への意見や質問、広報を読んだ感想などをお寄せください。
送り先 総務課広報広聴係

Q 自転車の運転マナーを守って

最近、歩道を走行する自転車に二回も遭いました。普通よりも速いスピードで走っていて、大変怖い思いをしました。自転車で乗りながら携帯電話を操作している人も見かけます。本当に危険ですので、やめて欲しいです。



A 自転車は車の仲間。交通ルールを守りましょう

自転車は、原則として車道左側の端を通行しなければなりません。例外として、次の場合は歩道を通行することができます。ただし、車道寄りの部分を徐行し、歩行者の妨げにならないように注意して通行しましょう。

次の方が通行する場合
七〇歳以上の方
十三歳未満の児童・幼児
身体の不自由な方

ま

ち

か

ど

4.11

「市民挙げての活動」が評価 鶴岡 文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）



三月二十八日に本市が文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）に選ばれたことを受け、近藤誠一文化庁長官が来し、市を代表して榎本市長、鶴岡食文化創造都市推進委員会の平智委員長、市食育・地産地消推進協議会の東山昭子会長が賞状と記念の盾を受け取りました。

これは文化芸術の持つ創造性を地域振興等に活用し、特に顕著な成果を挙げている市町村を表彰するもので、平成十九年度から実施されています。「食文化」という枠組みでの受賞は全国



でも初。近藤長官は「鶴岡は食文化というユニークな分野で、映画祭など様々な活動を展開し、その活動が市民に根付いている。在来作物の保全普及や国の重要無形民俗文化財『黒川能』の保全・伝承も受賞の一翼を担っている」と話しました。「山大農学部などの高等教育研究機関と調理人、生産者らが一体になって鶴岡の『食』を盛り立てている」と東山委員長。榎本市長は、今後のユネスコ創造都市ネットワーク加盟の取り組みなどの弾みとなる」と、受賞の喜びを話しました。

4.1

伝統の舞を今に受け継ぐ 櫛引 松根地区節句祭り



四月といえどもまだ雪残る松根地区。同地区新山神社の節句祭りで天狗・獅子舞が奉納されました。松根地区の天狗・獅子舞は大正時代に板井川地区の河内神社から伝わったものです。一時は後継者不足のために存続が危ぶまれましたが、地区で生涯学習組織「松根塾」を設立し、後継者育成に尽力。その結果、多くの若者がこの伝統芸能を受け継ぎ、今に伝えていきます。昨年度にはコミュニティ助成事業を受けて装束や楽器を新調。同塾では更なる継承活動の活性化に努めています。



ます。笛の調べと太鼓の響きの中、天狗が力強くも厳かに舞い、続いて勇壮な獅子舞。この日は二十代から六十代までの松根地区民が舞手や囃子方として参加しました。神社を後にした一行は地区内の家々を巡り、舞を奉納しました。舞の出来を吟味する古老、天狗の面に興味津々な男の子や獅子を怖がり泣いてしまう女の子など、多くの住民が見物。家主がお神酒で天狗・獅子舞一行をもてなし、皆で今年の五穀豊穡を願いました。

「自転車及び歩行者専用」などの標識によって、自転車も通行できるとされている歩道を通行する場合は



自転車及び歩行者専用

その他、交通の危険があつてやむを得ない事情がある場合

また、山形県道路交通規則が改正（平成二十四年三月一日施行）され、次の行為が禁止されました。違反すると五万円以下の罰金刑となります。

自転車運転中の携帯電話等の通話や操作



ヘッドホン・イヤホンの使用で、周囲の音が十分聞こえないような状態での自転車運転



「全ての道路」での傘さし運転



たとえ自転車でも、危険な運転をすれば死亡事故などの重大な事故につながります。

交通ルールを守り、安全運転に努めましょう。

防災安全課

3.22

健康への理解を 深める

朝日

ぼんぼ健康教室

かたくり温泉ぼんぼを会場に今年三回目の「ぼんぼ健康教室」が開催され、温泉利用者をはじめ多くの市民が参加しました。

この日は、庄内保健所長の松田徹氏が「生活習慣病とがん」と題して講話。テーマに加え、正しいお風呂の入り方や放射能の話もあり、聴講者はうなずきながら熱心に聞き入っていました。



3.23

貴重な甲冑群が 一堂に

櫛引

春日神社甲冑展



郷土文化保存伝習館で春日神社甲冑展が開催されました。展示品は神社が所蔵する甲冑群のうちの十二点で、これらは明治二年に酒井吉之丞が酒井家の転封中止を祝い奉納したと伝えられているものです。細やかな装飾が施された桃山時代や江戸時代の甲冑。「飾りがきれい」「これを着て動くのは大変そう」。見学者は貴重な展示品に見入っていました。

3.24~27

全国の頂点目指し 競い合う

市内

全国スポーツ少年団バレーボール交流大会



全国スポーツ少年団バレーボール交流大会が市内四か所の会場で開催され、各地で熱戦が繰り広げられました。

東日本大震災の影響で宮城県から代替え開催となった今大会は「とどけよう スポーツの力を東北へ！」をテーマに男子十チーム、女子四十八チームが出場。選手たちは全力で試合に臨んでいました。

3.28

藤の老木に 教わる

藤島

日本一ふじの里づくり講演会

樹木医で「あしかがフラワーパーク」園長の塚本こなみ氏が明治ボールで講演しました。塚本氏は六百畳敷きの大藤を育てる苦労や、人間同様にギブスをして藤を移植したエピソードを紹介。「佐藤など藤が付く苗字が多いのは日本人が藤を大切にしてきた証拠」老木に接するほど樹木医として教わるが多く、自然に対して謙虚になる」と話しました。



ま

ち

か

ど





4.1

あつみ温泉名物 「朝市」オープン

あつみ温泉朝市店開き

温海



温泉名物の「朝市」が今シーズンの営業を開始しました。特産のカブ漬げや山菜、イカの一夜干しなどをずらりと並べた店舗が集まる朝市広場には、早朝から浴衣姿の宿泊客らが次々と訪れ、味見をしたり売り子の女性との掛け合いをしたりしながら、気に入った土産品を買い求めています。朝市は十一月末日まで、毎朝五時三十分から営業しています。

4.9

キンチョウの 入学式

鼠ヶ関小学校入学式

温海



四月六日から十日にかけて、市内の小・中学校で入学式が行われ、新入生たちが大きな希望を胸に学校生活をスタートさせました。このうち、鼠ヶ関小学校には十二人が入学。緊張の面持ちで式に臨んだ新一年生でしたが、一人ひとり順番に名前を呼び上げられると、「ハイ！」と元気な声で返事をし、先生や保護者からは笑みがこぼれていました。

4.10

守ってあげよう 新入学児童！

藤島交通安全会母の会啓発活動

藤島



春の交通安全県民運動に合わせて、母の会の啓発活動が行われました。会員らは、渡前小学校の入学式に出席する親子に手作りマスコットとランドセル用反射材をプレゼント。受けとった児童たちは笑顔で元気にあいさつを返していました。保護者には、子供たちを交通事故から守るために、家庭でのさらなる声かけや見守りをお願いしました。

4.14

昨日の自分を 超える

朝日スポーツ少年団結団式

朝日



八団体百二十二人の団員と指導者保護者が一堂に会し、朝日スポーツセンターで結団式が行われました。今年は、スポーツ飲料メーカーの担当者が熱中症予防対策について講話。平常時からのコンディション調整について学びました。終了後にはスポーツテストが行われ、団員らは自己の記録を超えようと真剣に取り組みました。